



中之町幼稚園だより

令和 8 年 1 1 月 号
港区立中之町幼稚園
園 長 酒井 正美

肌寒い日が増えてきました。本格的な寒さが来る前に、心地よい気候の下、戸外での遊びをたっぷりと楽しんでいきます。また、遠足で拾ったドングリ等を使って遊んだり、木々の葉の色の変化を楽しんだりするなど、秋の自然に関わっていきたいと思います。

幼稚園では、運動会の後、年少、年中の子供たちが、年長組と一緒にリズムを踊ったり、リレーに入れてもらったりしながら、3 学年が混ざりあって遊ぶ姿がしばらく続きました。年長児は、「年長さんみたいにかっこよくリレーをしてみたい。」と年中、年少の子がリレーに入ってくれることがうれしい様子でした。もちろん勝負にはならないのですが、走り方を教えてあげたり、「がんばれ！」と応援したりしながら、一緒に遊ぶことを楽しんでいました。

また、園庭にたわわに実った姫リンゴを、年長児が収穫しました。収穫後は、ジャムにしようかと相談をし、時間をかけて混ぜたり煮詰めたりしてジャムをつくり、おいしくいただきました。ですが、すっかり食べ終わった後に、「あっ、太陽組（年少児）や地球組（年中児）におすそ分けしないで、全部食べちゃった！」「どうしようか。」「今度、カリンを採ったらまたジャムにして、それをおすそ分けしたらいいんじゃない？」という会話が聞かれ、どうやらそのようにすることになりそうです。

一般的には、近隣の子供同士の関わり、異年齢の幼児同士の関りが少なくなっている現代において、幼稚園で経験する異年齢の関わりは大変貴重であると考えています。教員たちは、同じ園で遊び、生活する幼児同士、様々な場面で互いのしていることに関心をもてるように考え工夫をしています。年長児には、年中、年少児に対する思いやりの気持ちがもてるようになってほしいと願っています。収穫物やおいしいものがあったら、「みんなに配ってあげよう。」困っている様子があれば、「手伝ってあげよう」など、自分たちが楽しむだけでなく、他学年への思いをもち、「おすそ分け」「手助け」など、思いを行動に表す機会を大切にしていきたいと思います。年中、年少児が抱く、年長児に対する憧れの気持ちや優しくしてもらったうれしさは、心に積り、自分たちが大きくなった時の小さい友達に対する思いやりの行動につながっていきます。思いやりをもち、相手に対する行動に表せることは、言われたからと言ってできるようになるものではありません。こうした関りの経験、自分が大切にされる経験を大切にする事、「お先にどうぞ」といった譲り合う姿、相手を思いやる言葉や行動を大人が見せていくこと、子供たちが相手に思いをもち行動する姿や機会を大切にしていくことで、子供たちの心の中から出てくるようになってほしいと願います。

